

暑い日々が続いております。今年もお盆の季節が巡ってまいりました。ご先祖様をご自宅にお迎えできることに感謝の気持ちを持って準備したいものです。

多くの地方では、^{むかえぼん}迎盆といって八月十三日にお墓やお寺をお参りし、ご先祖様を自宅にお迎えいたします。お盆の^{ちょうちん}提灯の明かりに照らされて家路につくお参りの方々、供養の気持ちが形にあらわれ、静かで安らかな気持ちがいたします。

また、昨年のお盆から今年のお盆までに、ご家族や身内の方を亡くされた新盆（にいぼん）の方も、新たに仏さまとなった故人を^{しの}偲んでお参りをします。

新盆（にいぼん）は、初盆（はつぼん）・新盆（しんぼん）とも言い、亡くなられた故人を初めてご先祖様と共にご自宅にお迎えをするお盆のことです。

亡くなられた故人にとっても、残された家族にとっても故人が仏さまとなって初めて迎えるお盆です、大切に過ごしたいものです。

新盆のお宅には、故人を偲んで親類やご縁があった多くの方々がお参りに来られます。故人の生前のお話を伺う中で、知っているつもりでも知らなかった故人の話を聞くこともあります。家族で故人の思い出を話していると「ああ、そんな事もあったのか……。」と、思うこともあります。みんなで思い出を語り合い、故人と過ごした時間に思いを寄せるといことは、大切な供養になると思います。

また、亡くなられた故人をご自宅に迎えるということは、新たに私たちと故人が出会うという事にもなるのです。思い出話の中で今まで知らなかった故人の一面を知ったり、また故人を通じて新たな人間関係が出来たりと、生前にもまして故人とのつながりの大切さに気づく機会でもあるのではないのでしょうか？

お盆を迎えるという事は、ご先祖様や亡くなった近しい人と再び出会うという事です。ご先祖様や故人を思い、心静かに大切に迎えたいものです。